

富村 保先生のご逝去を悼む



本学名誉教授 富村 保先生は平成11年1月24日肺癌のため市立堺病院で逝去されました。享年73歳(大正14年5月20日生)。

先生は大阪府茨木市のご出身で、昭和22年3月に本学農学部獣医学科の前身である大阪獣医畜産専門学校を卒業され、ただちに同校助手に奉職されました。昭和24年4月、新制大学発足とともに当時の浪速大学、現在の大阪府立大学農学部助手になられ、昭和37年12月同講師、昭和41年11月同助教授、昭和55年9月同教授(寄生虫学担当)に就任され、平成元年3月に定年退職されるまでの42年間、家畜病理学ならびに家畜寄生虫学の教育・研究に専念され、多くの優秀な人材をお育てになりました。先生は数多くの研究業績を残されましたが、特に、人獣共通寄生虫病の1つである肺吸虫症に関する研究をライフワークとされ、近畿地方における肺吸虫、とりわけ宮崎肺吸虫メタセルカリアの分布を詳細に調査されるとともに、各種動物の実験的肺吸虫症の病理学的研究について多くの論文を報告されています。病理学講座の何人もの卒業生の方々は、城崎、和田山、吉野、高野山など各所の山間の沢にサワガニを採りに行ったことを思い出されることでしょうか。このほか、肝蛭症、犬糸状虫症、犬回虫症など各種の寄生虫病の野外例ならびに実験例の病理学的研究を精力的に進められ、ご退職時の最終講義では「寄生虫と語る」と題しZoonosisの見地から熱弁をふるわれました。また、各種動物の病気の病理学的研究を幅広く行われました。学会活動は、主に日本寄生虫学会、日本獣医病理学会で活躍され、評議員を歴任されていたほか、日

本獣医病理学会からは同会の発展に貢献した会員に贈られる「功労会員証」(第13号)を平成8年にお受けになりました。

ご退職後は科研製薬(株)に技術顧問として勤務され、若い毒性病理研究者の指導にあたっておられました。府大ご在職当時と変わらず、常に最新の情報・知識を得ることに努められ、獣医病理学会や毒性病理学会およびそれらのセミナーには必ず出席し、また、時間があれば大学の図書館で勉強しておられたそうで、時々病理の研究室にも顔を出して下さり、何かとご助言をいただきました。

先生はご在職中から常に健康に留意され、風邪で休まれたことも殆どありませんでした。ご遺族によりますと、退職後も元気そのもので、健康のため毎週末のようにハイキングに行かれていたそうです。しかし、昨年8月終わり頃体調不良を訴えられ、精密検査の結果、肺癌だと分かったそうですが、本人の強い意向で家族以外の誰にも伝えることなく4か月余りの闘病生活を送られたそうです。また、ご遺言により近親者だけで葬儀が執り行われました。これらのことはご遺族・卒業生・関係各位に対する先生の細やかなご配慮と存じます。先生から学びました多くのことを心に刻み、謹んでご冥福をお祈りいたします。(獣医病理学講座 小谷猛夫)



お元気な頃の富村先生